

成果報告書

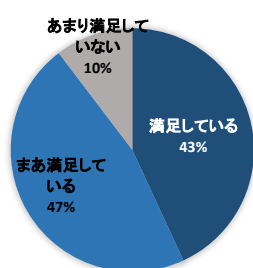
地域部活動推進事業

担当部署	福井県教育庁義務教育課		
所在地	福井県敦賀市	運営形態	地域文化芸術団体等運営型 (合同部活動)
運営主体	福井県敦賀市学校教育課		
課題	①地域ジュニア吹奏楽団の活動方針の明確化 ②演奏活動支援の拡充 ・楽器初心者の受け入れ態勢づくり ・私立中学生、高校生の参加受け入れ ③地域部活動に関わる教員の兼職兼業 ④受益者負担額の再検討		
事業目標	①地域ジュニア吹奏楽団の活動方針、年間活動計画の作成 地域ジュニア吹奏楽団演奏会の実施 ②敦賀市民吹奏楽団による楽器初心者への指導の実施 私立中学生、高校生の参加の検討、方針の決定 ③学校開放に関わる教員の手当支給についての検討、方針の決定 ④持続可能な受益者負担額の設定		
団体・組織等の連携			
拠点校等	敦賀市立角鹿中学校 (敦賀市立松陵中学校、敦賀市立気比中学校、敦賀市立栗野中学校)		
活動場所	敦賀市立角鹿中学校…第2土曜日 敦賀市立松陵中学校、敦賀市立気比中学校、敦賀市立栗野中学校…第4土曜日		
活動概要	(1) 検討委員会の開催(5月、11月:県) (5月)・委員委嘱 ・令和4年度事業の説明、検討 (11月)・取組の経過報告 ・アンケート調査の内容について (2) アンケート調査の実施(1月中旬:敦賀市) (3) 地域部活動の実践 ・中2、3年吹奏楽部員への加入確認、保護者への活動説明(4月) ・新入部員とその保護者への入団説明(5月) ・親団体による楽器初心者への技術指導(5月～) ・地域吹奏楽団としての演奏会の実施(8～9月) (4) 学校開放、教員の兼職兼業についての検討会議の開催(4月～:敦賀市) 学校部活動との連携についての検討会議の開催 (4～5月:敦賀市、敦賀市中学校吹奏楽部会)		

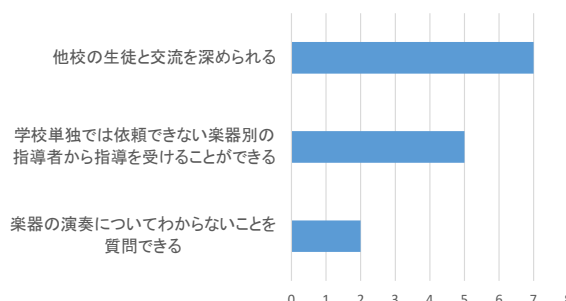
○本事業による成果

- ・地域部活動に参加した生徒の90%が、地域部活動に満足していると回答している。【図1】外部指導者から専門性の高い技術指導を受けられたことで技術の向上につながったと感じている。また、他校の吹奏楽部員と一緒に練習することが良い刺激となっている。
- ・地域部活動によって、他校生徒との交流や深まりや専門的な指導を受けられるよさを指導者(顧問・副顧問)が実感【図2】
- ・月2回の部活動に携わらなくなり、「直接的な指導時間が減った」と感じていると指導者(顧問・副顧問)が回答している。【図3】

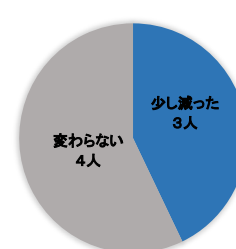
【図1】地域部活動の満足度(生徒)



【図2】地域部活動のよいところ(顧問・副顧問)



【図3】負担感の変容(顧問・副顧問)



○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・個々の生徒の技能向上のため、合奏指導と楽器別講習を交互に実施
合奏指導には、大人の吹奏楽団員と一緒に合奏に入り、合奏時にわからないことを生徒がすぐにきくことができる環境にしている。また、基礎合奏を中心とし、生徒の譜読みに充てる時間の軽減を図っている。楽器別講習では県内の楽器指導者を招聘し、個々の演奏技術、パート内のアンサンブル技術を高めている。参加生徒が多い楽器については、指導者を増員して対応している。今年度は、県外の指導者も招聘し、個人の技能向上を図った。

○運営上の工夫

- ・月2回(第2、4土曜日)の実施とし、学校部活動に必要な時間を確保(地域部活動を行う日は原則、学校部活動を行わない)
- ・市中学校吹奏楽部会長が地域部活動のコーディネーター役を担い、学校部活動と連携
- ・アプリ活用により、生徒の欠席連絡等、保護者との円滑な連絡体制を構築
- ・敦賀市教育委員会による学校施設の開放により、市内4中学校の音楽室や教室等を使用して活動
- ・各学校を経由する借り上げバスを運行し、保護者の送迎負担を軽減
- ・社会人吹奏楽団と協力・連携し、楽譜や楽器を共有
- ・社会人吹奏楽団による新1年生の楽器指導
- ・学校開放については、顧問・副顧問が交互で担当
- ・学校部活動と地域部活動との連携を図るため、年間活動計画を作成

○継続的な運営に関する課題

〈教員の負担軽減〉

- ・活動場所を学校としていることから、当該校を会場とする日は会場準備、片付けのために顧問が学校に来なくてはならない。

〈保護者の費用負担〉

- ・国の事業が終了することや、月2回の活動を増やしていくことで保護者の負担も増える。保護者の負担が急激に増えないよう市の支援について検討が必要である。

〈地域への周知〉

- ・9月に演奏会を実施したが、運動部の部活動引退の時期にあわせて退団する生徒がいた。全員で演奏会に参加できるよう定期演奏会の時期について検討していく。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

〈教員の負担軽減〉

- ・活動場所を学校とするが、顧問が学校に来なくてもよい仕組みづくり、もしくは手当の支給を検討していく。
- ・月2回の学校部活動がなくなった分、大会に向けた学校部活動に負担がかかっている。各顧問と連絡調整し、大会前の地域部活動の在り方を検討していく。

〈保護者の費用負担〉

- ・国、県、市の支援、地域部活動の実施回数、保護者アンケート等を踏まえ、保護者の費用負担をどのようにしていくか、年度当初に検討していく。

〈地域への周知〉

- ・地域の音楽文化の向上・発展のため、ジュニア吹奏楽団の活動について地域に理解してもらうため、地域における演奏会を開催し、その実施時期について検討していく。

〈コンクールへの参加〉

- ・令和5年度以降のコンクールの参加について検討していく。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	気比中学校:6名 角鹿中学校:23名 松陵中学校:17名 栗野中学校:17名
	募集方法	年度初めに、2年生、3年生に対して加入確認 1年生入部後、入団について説明会
指導者	人数等	合奏指導:市内の吹奏楽顧問(1名) 楽器別講習:主に県内の楽器指導者(7~8名)
	募集方法	
参加者の移動手段		借り上げバス(市内の中学校を経由)
活動費用	指導者謝金等	1500円(1時間)
	その他	入団費 1,000円/年(保険料として) 活動日 2,000円/月(バス借り上げ代として)
スケジュール	基本活動	第2・4土曜日(学校行事等により適宜変更)午後3時間
	年間	9月 演奏会
保険加入等		スポーツ安全保険(活動中と移動中の対人・対物賠償保険)

【活動の様子（写真添付）】

第2週 合奏練習



第4週 楽器別講習



令和4年 9月 演奏会

